



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
[URL] <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2013年11月29日

報道関係 各位

～自分でつくれるみらいの車～ 走っているときに「水」しか排出しない究極のエコカー 燃料電池自動車走らせよう！

北海道コカ・コーラボトリング株式会社(本社:札幌市清田区 代表取締役社長:矢吹健次)は、2009年1月に締結した「さっぽろまちづくりパートナー協定」に基づき、札幌市円山動物園の環境教育活動と賑わいづくりを応援しています。それに伴い、2013年11月30日(土)、札幌トヨペット株式会社と協働で、同園内「ネイチャーカフェ・アース」において、「みらいの車! 燃料電池自動車を走らせよう!!」を開催いたします。



燃料電池自動車

水素と酸素の化学反応により電気を取り出す燃料電池は、反応後、水しか排出しないことから、次世代の自動車の動力源として期待されています。

このたび、当社と同じく、札幌市円山動物園を応援している札幌トヨペット株式会社のご協力により、燃料電池自動車を走らせる体験イベントを開催する運びとなりました。

イベントでは、様々な溶液を使って、燃料電池自動車の模型を走らせます。チーム対抗で距離を競い合っていたいただき、上位入賞者には景品を差し上げます。

同イベントにより、地球環境の保護について考えるきっかけを提供することができれば幸いです。

従来の自動車は走行中、二酸化炭素等のガスを排出します。二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加によって、地球温暖化問題が引き起こされます。地球温暖化の進行によって、海面の上昇や異常気象の増加、ホッキョクグマをはじめとする様々な野生動物へ影響が生じることが懸念されています。

「みらいの車! 燃料電池自動車を走らせよう!!」概要

開催日時: 2013年11月30日(土) 10:00~ (所要時間:60分程度)

開催場所: 札幌市円山動物園内「ネイチャーカフェ・アース」

参加人数: 各回 24名 参加費:無料

後援: 札幌市円山動物園

当社は、「変化への挑戦~北の大地とともに~」をスローガンに、環境保全活動を通じて、持続可能で、安全・安心な社会の実現を目指しております。

これからも、次世代を担う子ども達に、将来の地球の姿を考える場を提供することや、安全・安心を守る活動を、事業活動を通じて継続的に推進してまいります。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

広報・CSR推進部 担当:藤井

TEL 011-888-2091

ご参考

【北海道コカ・コーラボトリングの取組み】

「さっぽろまちづくりパートナー協定」

札幌市では市民自治の推進を図るために、幅広い政策分野や事業について、ともにまちづくりを担っていくことを合意できた企業と、包括的な連携協定(名称 さっぽろまちづくりパートナー協定)を締結しています。

(締結日 2009年1月8日)

札幌市と当社は以下の4分野を連携の柱とした協定を締結しました。

- (1) 未来を担う子ども達が健やかに育つまちづくり
- (2) 安心・安全で誰もが健康に暮らせる、人と環境にやさしいまちづくり
- (3) 観光・文化・スポーツの振興を通じた、都市の魅力が輝くまちづくり
- (4) 地域の連携・協働を進めるまちづくり

また、2011年6月に、札幌市清田区にある白旗山の森づくりを応援するとともに、円山動物園におけるさらなる環境啓発の展開・充実を目指し、「環境事業に関する協定」を締結。

当社と「札幌市円山動物園」との協働の取組み

・2008年7月、札幌市円山動物園内に、次世代教育の場として「nature café EARTH(ネイチャーカフェ アース)」をオープンし、来園者の休憩を楽しんでもらうほか、環境の大切さを感じていただく場として運営。



・2010年9月、北海道に生息する猛禽類の飼育下繁殖技術の確立や傷ついた猛禽類の保護、放鳥にむけてのリハビリテーション施設、市民に生態系保存の重要性を伝えていくことを目的とした「野生動物復元プロジェクト」を応援するために1000万円を寄付いたしました。



2013年4月「Qoo(クー)どうぶつデザイン」を発売

札幌市とその周辺地域にて限定販売。同製品の売り上げの一部は、札幌市円山動物園の環境教育活動に役立てられています。



【札幌トヨペットの取組み】



札幌トヨペットでは、プリウス・プリウス・アクアを通じて、札幌市円山動物園のホッキョクグマの自然繁殖を応援するプロジェクトを実施しています。絶滅の危機にあるホッキョクグマの自然繁殖を応援することで、より良い自然環境を次の世代へ残そうという取組みを行っています。